

歴史探訪

クラブ! 其の110

History Inquiry Club



文化財課 ☎23局 3635
FAX 22局 3811

城山にあるなぞの城

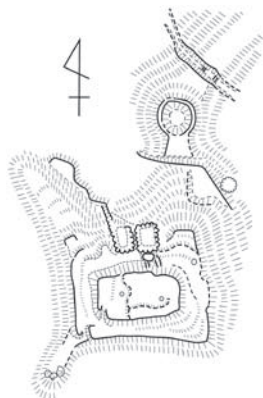
渥美半島の先端近く、堀切町の城山（標高138m）の山頂に、城跡があることを知らない方も多いと思います。この城山、その名のとおり城があったことが想像できます。

『愛知県中世城館跡調査報告書』には「和名の城」として載っていますが、築城の時期や城主についての定説はありません。江戸時代の記録には小笠原新九郎説、徳川秀忠の狩場陣地説、足利義政の家臣烏丸資任説がありますが、後ろ2説については当時

でも疑わしいとしています。

また、『渥美町史』では、南北朝時代の南朝方の砦跡という伝承を紹介し、南朝を支えた伊勢の北畠氏、度会氏とともに、南朝方であった渥美半島の神領地を支配していた松垣氏が築城したのではないかという説を紹介しています。もしも南朝・北朝の抗争に関わった城だとしたら、歴史研究家には魅力的な説です。

城の様子を伝える江戸時代の『三河城墨地理志考』という記録に、「城形陣城の如し 山の東南は甚だ峻し 西北も亦麓に下りて後は平なれども、根小屋を用いたる迹もなく、屋布割の形も見えず水の手なき山なれば全く居城に非ず 海上見切の番手の城か、敵船を防ぐ備えにて無用の用と云ふべし 人数七八十を置く所なり」と、山麓には城主の屋敷跡らしきものもない、非常時の陣地的な城では



▲城山の見取図(高田徹氏作図)

ないかと記しています。この本ができた江戸時代終りには、すでに由来が分からない城となっていたのです。

さて、山頂付近に現在みられる遺構には、箱を二段積んだような平らな面（曲輪）が確認できます。北側には大きな穴が2つあり、北東方向にも大きな穴があります。その先には山の尾根を切るように堀が横断しています。この堀は尾根伝いに上がってくる敵を防ぐために設けられたと思います。幅、深さともに小規模で役割を果たせるか不安です。

城山には、太平洋戦争時に監視哨



▲城山(日出園地から堀切町方面を望む)

が設けられており、大きな穴は大砲を据える施設やその他関連の施設だった可能性もあります。したがって、築城当時の遺構がどれだけ残っているか分かりません。城山が南北朝の城であるという希望も、文献や城の構造の分析からも現在のところ証明できていませんし、戦国時代のものともいえないのです。しかし城主は分からなくても、かつて城が存在したことは間違いないと思います。

渥美半島では貴重な城ですが、依然として、なぞの城といわざるを得ません。城主や築城の時期の解明は、今後のお楽しみとして取っておきましょう。

皆さんも、このなぞの城の解明に挑戦してみてくださいがですか。
(増山)

今月の「表紙」

▲潮音寺の境内にただよ
う甘い香り。香りの主は、
樹齢90年になる一本のフ
ジの木でした。広さ約120㎡
ものフジ棚から垂れ下がる花房
は、長いものでは1m以上。年
月の積み重ねを感じました。さ
て、私が広報の編集を始めてか
らの年輪は2年。まだまだ成長
途中、がんばらねば。(O)

「表紙の写真」潮音寺(福江町)のフジ